



2019.3.11 千葉地本主催



南相馬市立中学校の卒業生へ ガーベラの花を届けてきました！



東日本大震災から8年を迎えた3月11日、福島県南相馬市の中学校卒業生にガーベラの花を届ける取り組みを、今年は千葉地本独自で行いました。ガーベラは「希望」という意味があり、原発事故や津波の影響で今も苦しむ卒業生の皆さんに、心の復興への気持ちを込めて花を届けてきました。

校長先生からは、「毎年卒業証書と一緒に花を贈ることができて感謝しています」「まだまだ復興には遠い。是非、現地を見て帰ってほしい」「鉄道が繋がることで皆が元気になる」「毎年千葉から来てくれて、忘れないでいてくれて有り難い」「皆で力を合わせて頑張っているものの、地元の人はまだ戻ってこないんです」など、復興への道のりはまだ遠い現実を感じました。

参加した組合員からは、「3月11日はやはり特別な日だ」「現地に来ないとわからない」「想いに立って私たちが出来ることをやっていく必要がある」「このような取り組みを行わない理由はない」などの感想が挙がり、苦しい現実を変えるために、改めて脱原発とヒューマニズムの取り組みが必要であることを参加者全員で確認し終了しました。

**ヒューマニズムがなければ東日本大震災を乗り越えられなかった！
今こそ、あらゆる仲間と新生東労組へ結集して、難局を乗り越えよう！**